

# DCに向けて追加予算の考えは

※14ページ参照

## 町 積極的な取組みに対して支援する

**問** キャンペーンにおける入り込み目標値、経済効果は。

**町長** 入り込み数149万人、宿泊数42万人、経済効果は11億3千万円を目標としている。

**問** 来年度DC本番に向けての推進体制は。

**観光商工課長** 本年度同様

那須町DC実行委員会を中心として、下部組織のDC企画部会において様々な取組みの検討をしていく。

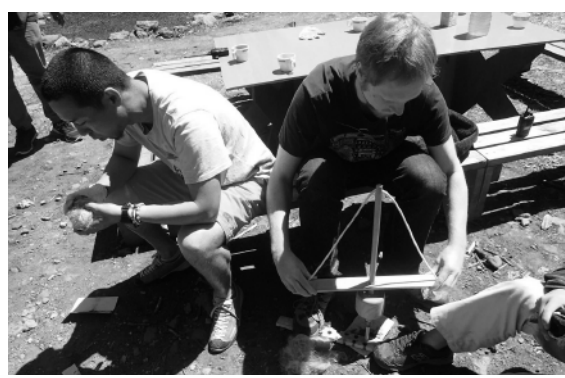
**問** DC本番に向けて追加予算の考えは。

**町長** DCは、当町の底力を見せる絶好の機会である。キャンペーン終了後まで見据えての提案を期待し

たい。早い時期から商品の提案をし、売り込みをしていきたい。そのための予算面での支援は、本年度中の補正でも対応していく。

**問** 観光の専門家を役場職員として雇用する考えは。

**観光商工課長** 役場内での雇用は難しい。観光協会等で検討していただきたい。



プレDC体験プラン。男を磨く「男塾」の一場面

## 農業を通しての定住促進対策は

### 町 民間と行政と連携して取組む

**問** 新規就農希望者へのお試し農業体験などの充実。

**農林振興課長** 国の研修制度はあるが、就農に向けての当町独自のきっかけ作りは必要と考えている。今後は、農業公社などと連携して、施策を展開したい。

**問** 民間の団体と連携して、体験プランの充実を図る考えは。

**農林振興課長** 町内の農業生産法人などが、就農希望者へのきっかけ作りを担っていたらできれば相互協力は可能と考える。

**問** ※6次化を含めた、観光と農業の連携による定住増の実現に向けた取組は。

**農林振興課長** 町内各所で6次産業化が実現すれば、地域の付加価値も向上し、雇用も増えれば定住も増える

る。官民一体となり、研究を進めたい。また、経営安定の面からも、農産物のブランド化による高付加価値化を実現し、農業公社を先頭に、町内での利用率アップを進めたい。

※6次産業(ろくじさんぎょう) 農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表す、農業経済学者の今村奈良臣が提唱した造語。また、このような経営の多角化を6次産業化と呼ぶ。



農業と観光の連携は経営の安定、定住の促進を促す



茅野 健